ぶどう膜炎について

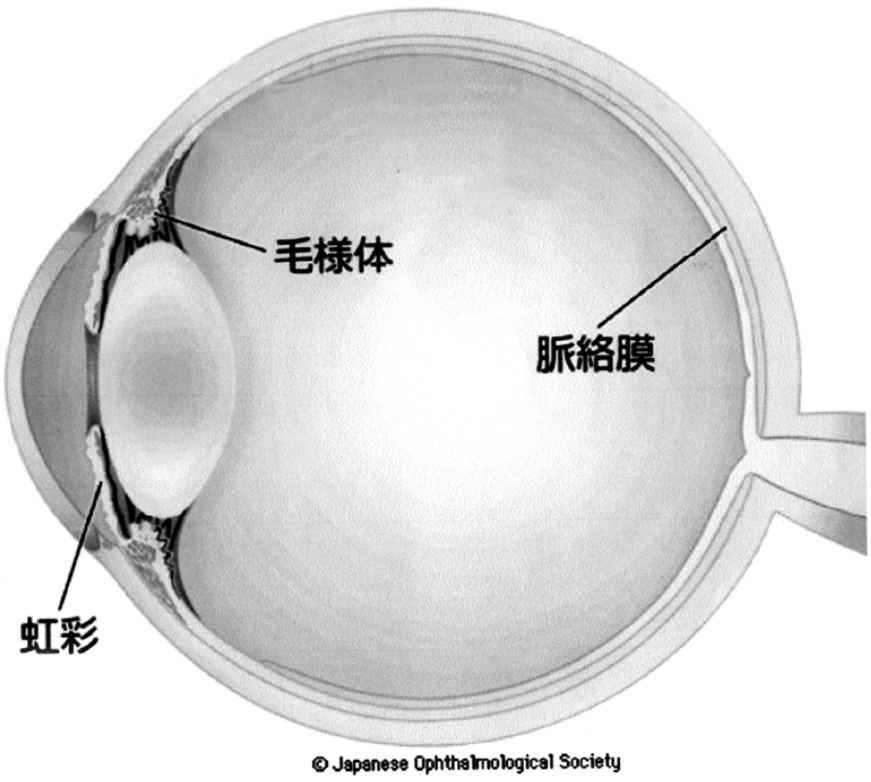
眼科　山城　博子（医師）

眼の病気といえばまず思い浮かべるのが白内障や緑内障だと思いますが、ぶどう膜炎という病気は聞いたことがないという方も多いことでしょう。

＊――＊

そもそもぶどう膜とは眼の中のどの部分をさすのでしょう。ぶどう膜とは眼の中の脈絡膜・虹彩・毛様体の3つをまとめていう呼び方です。この部分はメラニン色素が豊富で血管も多く、ぶどうの色に似ていることからぶどう膜と呼ばれます。

ぶどう膜炎の原因の約半数はベーチェット病、サルコイドーシス、原田病の3つでこれを三大ぶどう膜炎といいます。そのほかには膠原病・皮膚疾患・関節疾患・糖尿病・感染症・外傷・悪性腫瘍などが原因となることもあります。



【日本眼科学会ホームページより】

痛・まぶしさなどです。片眼だけの場合と両眼の場合があります。

ぶどう膜炎にはいろいろな原因があり、治療法が異なることもありますので、まず原因を調べることが大切です。そのため血液検査・胸部レントゲン撮影・心電図・尿検査・ツベルクリン反応などの全身検査を行います。これらの検査の結果と眼の所見とを考え合わせて診断を行います。原因がわからないこともあります。

＊――＊

それでは三大ぶどう膜炎について説明しましょう。

ベーチェット病はぶどう膜炎・口内炎・陰部潰瘍・皮膚の紅斑などの症状があらわれることが多く、ぶどう膜炎の発作をくりかえすことにより眼の中の組織が次第に痛んできてしまう病気です。難病の一つですが最近は効果の高い薬が開発されています。

サルコイドーシスはぶどう膜・肺・リンパ節・心臓・腎臓・脳などいろいろな臓器に肉芽腫（にくげしゅ）というものができる病気です。肉芽腫ができる原因は不明です。

原田病は自分の体の中にあるメラニン色素を産生するメラノサイトという細胞に対し、自分が攻撃してしまうという自己免疫疾患の一つです。ふだんは外から侵入した異物や細菌などを排除しようとするのが免疫のはたらきですが、自己免疫疾患というのは自分で自分のからだを攻撃するように誤って働いてしまうのです。メラノサイトは皮膚・髪・耳の中・脳の髄膜などにありますので、白髪・めまい・耳鳴り・頭痛などの症状も出ることがあります。

＊――＊

ぶどう膜炎のときの治療はステロイド（点眼・内服・注射など）・散瞳薬（瞳をひらき炎症により瞳がくっつくのを防ぐ）などが主ですが、原因によって抗生物質・抗ウイルス薬・免疫抑制薬など特殊な薬を使うこともあります。全身症状がある場合はそれぞれの治療が必要になってきます。

ぶどう膜炎はいわゆる生活習慣病とは異なり、予防することはむずかしい病気ですが、過労やストレスが再発のきっかけになることもありますので、いったんぶどう膜炎と診断されたら規則正しい生活をすることが大切です。

再発することもあるという病気の性質上、自己判断で中断せず定期検査と治療を継続していくことが大切です。

視力低下・飛蚊症・充血・眼痛・まぶしさ－こんな症状があったら要チェック！

過労・ストレスなどを避け定期検査と治療継続を

肺炎球菌は人の口腔、気管支、鼻腔などの上気道に住みついている弱毒性の常在細菌です。健康な人の5～25％が肺炎球菌を保有しています。健康な人は、肺炎などの感染症を起こすことはありませんが、かぜをひいて、気管や気管支の抵抗力が低下している場合には肺炎球菌による感染症が起こりやすくなります。特に高齢者や、心臓、呼吸器の病気の方、腎不全、肝機能障害、糖尿病などの方は、体調を崩しやすい寒い季節に起こりやすくなります。肺炎球菌による病気は、肺炎、気管支炎、中耳炎、副鼻腔炎などがあります。治療にはほとんどの場合ペニシリンを使います。耳や、鼻の感染症には内服、重い症状には注射を使います。ペニシリンが効きにくい場合は、特殊なペニシリンや、ニューキノロン系の抗生物質で治療します。

肺炎球菌感染症の予防には、肺炎球菌ワクチンが使われます。80種類以上の型がある肺炎球菌のうちで感染する機会の多い23種類の型に対して免疫をつけることができます。また、日本で発生する肺炎球菌の8割に対応できる免疫をつけることができ、再感染の抗体価は、接種1カ月で最高になり、その免疫の効果は5年以上続きます。接種時の注意点は、接種後の副反応で、注射部位の腫れや痛み、ときに軽い熱がみられることがあります。また、接種したことがある人は、副反応が強くでるため、再度接種はできませんので、接種後は、お薬手帳や健康手帳に必ず記録しましょう。

肺炎球菌ワクチンの効果は、健康な成人には予防効果があることが示されていますが、高齢者または免疫が低下している人に対しての効果は十分には示されていません。しかしながら、高齢の慢性肺疾患患者にインフルエンザと肺炎の両方のワクチンを接種すれば、入院や死亡を減らすという報告もあり、肺炎で亡くなる人の9割以上は65歳以上の高齢者ということから、特に、高齢者に対して肺炎球菌ワクチンの予防接種を勧めています。費用は8000円前後で、自治体によっては助成をしているところもあり、渋谷区は75歳以上の区民には、全額助成しています。一度しか接種できないワクチンですので、接種を希望する時は、必ず医療機関に相談しましょう。

くすりの話あれこれ37

高齢者の肺炎球菌感染症の予防

楠本由美子（薬剤師・たくみ外苑薬局）

伝えようヒロシマ・ナガサキ

東友会結成50周年記念

東京原爆展

◆日時　2月5日（木）～9日（月）午前9時15分～午後5時30分（5日は午後1時から、9日は午後4時まで）
◆会場　東京都第一本庁舎45階南展望室（新宿区西新宿2－8－1）（入場無料）
◆主催　社団法人東友会・東京都原爆被害者団体協議会
◆後援　東京都・広島市・長崎市・東京新聞
◆問合先　東友会☎03(5842)5655